



システム構成図

説明は次ページをご覧ください

## ◆◆概要◆◆

大規模な埋立造成工事に伴い、暗渠導水路上に盛土が必要となり、導水路の強度管理のため、導水路内に土木計測器を設置、このデータを遠隔集中監視するシステムです。

土木計測器は導水路内の6計測点に設置、その総数は74点になります、計測所を3個所に設けて、定時計測を行い、そのデータは計測所の計測装置に蓄積され、現地での閲覧も可能ですが、設定時刻に制御所の監視卓で自動収集し、日データとして蓄積します。

計測データの変化量が設定値以上になると、計測所からの発報で、その内容を監視卓にアラーム表示します。

## ◆◆特長◆◆

1. 情報伝送路は、一般加入回線を利用したISDNサービスを使用しているため、設置費用、回線使用料も安価で、連絡用電話としての使用も可能です。
2. 計測所側からの発報で「データ変化量異常」のアラームとその内容が表示されるためリアルタイムで対処が可能です。
3. 制御所の監視卓からも随時、計測所の伝送装置にアクセスして、計測装置に蓄積されたデータを閲覧することができます。
4. 監視卓に蓄積されたデータは、時系列で表及びグラフ表示できます、又、このデータは帳票作成及び印刷出力することができます。
5. 伝送路に一般加入回線を使用しているため、他の局が接続していると、データ収集のためのアクセスができない事が予想されます、計測所にはアクセスを受け付ける電話番号を予め登録して、データ収集の確実性とセキュリティを確保しています。